

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	札幌学院大学
設置者名	学校法人 札幌学院大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.sgu.ac.jp/information/j09tjo000001jh8r-att/kessan2019.pdf
収支計算書又は損益計算書	貸借対照表 P9～10 資金収支計算書 P1～6
財産目録	事業活動収支計算書 P7～8
事業報告書	財産目録 P13～14 監事による監査報告書 P15 事業報告書
監事による監査報告(書)	https://www.sgu.ac.jp/information/j09tjo000001jh8r-att/report2019.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページ(以下のURLを参照してください。) https://www.sgu.ac.jp/information/hyouka.html https://www.sgu.ac.jp/information/hyouka2018-19.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページ(以下のURLを参照してください。) https://www.sgu.ac.jp/information/hyouka.html (本学HP) https://www.juaa.or.jp/search/detail.php?id=156&page=1 (大学基準協会HP)
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経営学部 経営学科
教育研究上の目的 (公表方法: 履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-bus_adm/dep-bus_adm/objective/)
(概要) (1) 変化する現実に適応可能なマネジメント能力を開発する。 (2) ビジネス実践におけるモラルとコンプライアンス精神を育成する。 (3) 環境適合・持続可能性の視点と行動における戦略的思考を育成する。 (4) 実践教育を通じて協働の精神と自律する力を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-bus_adm/dep-bus_adm/objective/)
(概要) (1) 現代社会の諸問題に関する基礎的知識の上に経営学に関する現代的、実践的な専門知識を修得していること。 (2) 自らの思考、判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーションとコミュニケーションの技能を修得していること。 (3) ビジネス実践におけるモラルとコンプライアンス精神を備え、環境に適合する経営的、戦略的思考と論理的な問題解決能力を修得していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-bus_adm/dep-bus_adm/objective/)
(概要) (1) 「現代的、実践的な専門知識」を育成するため、1年次から経営学基礎科目を配置し、2年次には基本科目群、3年次に展開科目群を配置して段階的・体系的に専門知識を修得できるようにする。体験型学習である実践科目群を2,3年次に配当し、実践的な専門知識を修得できるようにする。ゼミナール学習と連動して効果的・確実な知識修得が可能になるようにする。 (2) 「プレゼンテーションとコミュニケーション技能」を育成するため、4年間の一貫したゼミナール科目群とそれと連動した実践科目群、国際科目群、および情報系の専門科目を編成し配置する。特に、今日のグローバル化した社会に適応するために、国際科目群においてグローバル・コミュニケーション・スキルを磨く。 (3) 「問題解決能力」を育成するため、現実社会における課題発見力・解決力を養う場としての体験型の実践科目群を編成し配置する。これらを専門教育課程の中心におき、それと連動する専門科目を配置する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 入試ガイド ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-bus_adm/dep-bus_adm/objective/)
(概要) (1) 高等学校卒業に相当する学力を身につけていること。具体的には、高校で履修する国語、外国語、理科、数学、地理歴史・公民などの社会科科目の内容を理解していること。 (2) 企業経営や人間の経営行動、消費行動について考察し、理解していること。 (3) グローバル化したビジネスや地域の発展について、自らの考えを的確に表現し、伝えられること。 (4) 経営学科で行なうフィールド実践に率先して参加し、経営実践の学修に取り組む意欲があること。 (5) 経営学を学び、ビジネス感覚を身につける意欲があること。

学部等名 経営学部 会計ファイナンス学科
教育研究上の目的（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-bus_adm/dep-acc_fin/objective/
(概要) (1) 会計とファイナンスの知識をベースとしたマネジメント能力を開発する。 (2) 会計人、金融ビジネスパーソンとしてのモラルとコンプライアンス精神を育成する。 (3) 会計とファイナンスの総合的な知識による環境適応能力を育成する。 (4) 協働の精神と自律する力を持った会計人、金融ビジネスパーソンを育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-bus_adm/dep-acc_fin/objective/
(概要) (1) 現代社会の諸問題に関する基礎的知識の上に会計とファイナンスに関する現代的、実践的な専門知識を修得していること。 (2) 自らの思考、判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーションとコミュニケーションの技能を修得していること。 (3) 会計人、金融ビジネスパーソンとしてのモラルとコンプライアンス精神を備え、社会の持続可能性を追求できる戦略的思考と論理的な問題解決能力を修得していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-bus_adm/dep-acc_fin/objective/
(概要) (1) 「基礎知識、実践的専門知識」を育成するため、基礎科目群、展開科目群、ゼミナール科目群を設ける。1年次から簿記他の資格取得科目を配置する。 (2) 「プレゼンテーションとコミュニケーション技能」を育成するため、4年間の一貫したゼミナールと国際科目群の中で少人数教育を徹底する。今日のグローバル化した社会に適応するために、国際科目群においてグローバル・コミュニケーション・スキルを磨く。 (3) 「戦略的思考、論理的問題解決能力」を育成するため、4年間の一貫したゼミナールの中で少人数教育を徹底する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：入試ガイド ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-bus_adm/dep-acc_fin/objective/
(概要) (1) 高等学校卒業に相当する学力を身につけていること。具体的には、高校で履修する国語、外国語、理科、数学、地理歴史・公民などの社会科科目の内容を理解していること。 (2) 会計やファイナンス（企業金融や投資理論）について、考察し理解していること。 (3) グローバル化したビジネスや地域の発展について、自らの考えを的確に表現し、伝えられること。 (4) 簿記・会計を中心とした資格取得に取り組む意欲があること。 (5) 会計・ファイナンスを学び、ビジネス感覚を身につける意欲があること。

学部等名 経済学部 経済学科
教育研究上の目的（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-eco/dep-eco/objective/
(概要) (1) 経済学を中心にして、法律学や情報社会など社会科学分野の分析能力を修め、産業社会で活躍する人材を育成する。 (2) 経済学を中心にして、法律学や情報社会などの社会科学分野の専門知識を身につけ、日常生活を豊かにする教養を培う。 (3) 経済学・法律学・情報学・社会学に関連した領域を総合的に修め、市民社会の形成に参加する自律した人間を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-eco/dep-eco/objective/
(概要) (1) 国際的視野と地域視点を持ちながら、複雑に変化する現代経済の諸現象を多角的に分析するための専門知識を修得していること。 (2) 現代の経済ならびに社会に関する様々な情報を収集し、それを論理的に分析する知識と技術を身につけて、自ら現代の経済ならびに社会の諸問題を発見し、解決する能力を修得していること。 (3) より深い人間性と倫理観を身につけ、創造的な思考能力をもって市民社会の形成に参加し、産業社会で活躍できる能力を修得していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-eco/dep-eco/objective/
(概要) (1) 「多角的に分析するための専門知識」を育成するため、「専門基礎科目群」を配置し、経済的思考力や他の社会科学分野の専門基礎力をアップさせ、経済学と他の社会科学分野ならびに情報学などの基礎的分野に関する知識を養う。「コース科目群」を配置し、各分野の専門性を高める。 (2) 「問題発見、解決能力」を育成するため、4年間一貫したゼミナール教育を設け、専門知識とその応用能力を養い、報告・討論の実践を行う。 (3) 「産業社会で活躍できる能力」を育成するため、「国際経済」、「地域経済」、「キャリアアッププログラム」の3コースを設け、「キャリアアッププログラム」コースには「公共政策（公務員養成）」、「金融（FP）」、「情報（IT）」、「社会調査」の4プログラムを配置する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：入試ガイド ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-eco/dep-eco/objective/
(概要) (1) 高等学校卒業に相当する学力を持っていること。 (2) 公民科、地理歴史科などの学習を通じて、経済学および社会科学分野を学ぶための必要な基礎学力を持っていること。 (3) 社会的な諸課題について、問題意識をもち、説明・表現できること。 (4) 地域や社会に貢献するために経済学を学びたいと考えていること。

学部等名 人文学部 人間科学科
教育研究上の目的（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-hum_sci/objective/ ）
<p>（概要）</p> <p>(1) 人間についての幅広い基礎知識の習得を助け、それぞれの専攻ごとの専門性を要請する。</p> <p>(2) 自らの論拠と主張をわかりやすく説明する思考力と表現力、周囲と協力して課題解決に向かう力を養う。</p> <p>(3) 広い視野と実践力で現代の人間と社会の再生に貢献しようとする姿勢を涵養する。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-hum_sci/objective/ ）
<p>（概要）</p> <p>(1) 人間と人間を取り巻く環境についての幅広い基礎知識のうえに、個別学問の専門性を身につけている。</p> <p>(2) 総合科学としての人間科学の視点と対象の問題分析能力を身につけている。</p> <p>(3) 自らの思考や判断を説明するプレゼンテーション技能と、相互理解のためのコミュニケーションの技能を修得している。</p> <p>(4) 人間と人権を尊重する民主的な精神とそれに基づく判断力を身につけている。</p> <p>(5) 自らの問題を発見し、的確な論拠をもって主張を導き、他者にわかりやすく説明する思考力と表現力を身につけている。</p> <p>(6) 広い視野と実践的な方法で現代の人間と社会の再生に貢献しようとする創造的、応用的な思考能力を修得している。</p> <p>(7) 既成の観念や学問体系にとらわれず、総合的、自律的に学ぶ姿勢を持つことができる。</p> <p>(8) 課題に即して周囲と協力・協働して、解決に向かってともに進むことができる。</p> <p>(9) 社会の動向をよく理解し、地域社会の一員として貢献する高い志を持つことができる。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-hum_sci/objective/ ）
<p>（概要）</p> <p>(1) 個別科学の専門性と人間科学としての総合性を兼ね備えた視点と姿勢および地域社会の一員として貢献する志を育成するため、「ソーシャルワーク専攻」「心理・教育専攻」「地域文化専攻」の3つの専攻を設け、かつ専攻の枠を超えた多角的な学修を促す。</p> <p>(2) 問題を発見し、主張を導き、周囲にわかりやすく説明する創造的な思考力、表現力および協同性を育成し、かつ4年間一貫の段階的な少人数教育を保証するため、必修科目の基礎ゼミナール、演習、専門ゼミナールおよび卒業研究などからなる学科共通科目群を設ける。</p> <p>上記に加え、他学部、他学科の指定科目と共通教育科目の関連科目の履修を可能とし、さらに資格関連科目を配置することで、幅広い視野を身につけるとともにさまざまな分野の資格取得に対応する。</p>
入学者の受入れに関する方針（公表方法：入試ガイド ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-hum_sci/objective/ ）

(概要)

- (1) 高等学校卒業に相当する学力を身につけていること。
- (2) 国語科の基礎学力を備えていること。
- (3) 地理歴史科・公民科などの学習を通し、社会の諸問題を理解するために必要な基礎学力を備えていること。
- (4) 身の回りの人間と人間社会・文化に関する諸課題を多面的にとらえて考察し、それを自身の言葉で表現し、他人に伝えることができること。
- (5) 主体的な専攻選択に向けて、自らの興味関心に基づく多様な学びをどのように展開していきたいのか、具体的に考えることができること。
- (6) 人間と人間社会・文化に関心があり、地域社会の発展に貢献しようとする意欲を持っていること。
- (7) 現代社会が抱える矛盾と人々の生活の実態に関心を持ち、それらを当事者の視点から理解し解決したいと考えていること。
- (8) 人間の心理を深く知り、教育という営みをとおして、共生社会の実現に貢献しようと考えていること。
- (9) 多様な文化の理解と歴史的思考力を深め、地域の文化の継承と地域社会の活性化に貢献したいと考えていること。

学部等名 人文学部 英語英米文学科
教育研究上の目的（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-eng_lit/objective/ ）
<p>（概要）</p> <p>(1) TOEICスコアCレベル（470 から 730 点）以上の英語能力養成を目指す。</p> <p>(2) 本学科の専門分野である英語学・英米文学・英米地域研究・異文化コミュニケーション学における深い知識を養成する。</p> <p>(3) 積極的に国際交流活動に参加する機会を用意する。</p> <p>(4) 国際化される地域社会、国際社会に貢献できる人材を育成する。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-eng_lit/objective/ ）
<p>（概要）</p> <p>(1) 人文、社会、自然科学についての幅広い基礎知識を身につけている。</p> <p>(2) 英語学・英語コミュニケーション・英米文学・英米文化の専門知識、プレゼンテーション技能とコミュニケーションの技能、そして地域社会、国際社会に貢献できる英語運用能力を身につけている。</p> <p>(3) 英語に関する幅広い専門知識を基に、自らの考えをまとめ、聞き手に分かりやすく伝えたり、他者との間で論理的かつ説得力のあるディスカッションをしたりするための思考力を身につけている。</p> <p>(4) 地域社会、国際社会に貢献できる英語の表現力を身につけている。</p> <p>(5) 主体的な態度で学修に継続して取り組むことができる。</p> <p>(6) 多様な文化的背景を持つ人々と双方向的にコミュニケーションを取ろうとする意欲を身につけている。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-eng_lit/objective/ ）
<p>（概要）</p> <p>(1) 「英語圏の言語、文化の専門知識」を育成するため、「英語学」「英米文学」「英米地域研究」「異文化コミュニケーション学」の学問領域について体系的に学べるように科目を配置し、英語圏の言語の理解および英語運用能力の向上に結びつける。</p> <p>(2) 「プレゼンテーション技能とコミュニケーション技能」を育成するため、上記の各分野における専門科目の中でプレゼンテーションやディスカッションの機会を提供する。</p> <p>(3) 「英語運用能力」を育成するため、英語4技能の基盤を成す英語・英米文学や文化に関する総合的な知識を豊かにする科目および4技能の向上を図る科目を配置する。</p>
入学者の受入れに関する方針（公表方法：入試ガイド ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-eng_lit/objective/ ）
<p>（概要）</p> <p>(1) 高等学校卒業に相当する学力を身につけていること。</p> <p>(2) 高等学校卒業に相当する「英語」「国語」の基礎学力を備えていること。</p> <p>(3) 英語圏を中心とした外国の言語・文学・文化・ニュース・映画などに積極的に触れ、それに関する自分の意見を論理的にわかりやすくまとめ、表現する力を身につけていること。</p> <p>(4) 英語に興味を持ち、高等学校在学中に英検（実用英語技能検定）準2級以上を目標に取り組んでいること。また、大学入学後に英語の実践的運用能力（英検2級以上もしくはそれに相当するTOEICレベル）を身につけるよう取り組む意欲があること。</p> <p>(5) 多様な文化や言語に関心があり、その理解を海外留学、国際交流などを通して深めることに興味があること。</p> <p>(6) 英語力やコミュニケーション力を活かした社会貢献を目指していること。</p>

<p>学部等名 人文学部 臨床心理学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/hum_psychology.html）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 講義と実習を通じて、人との対話能力や感受性、自己表現能力に基づく「心理コミュニケーション力」を備えた人材を育成する。 (2) 講義と実習を通じて、臨床心理的アプローチの技法や態度とともに、心理臨床における責任感や倫理観についても習得した、「心理的援助スキル」を備えた人材を育成する。 (3) 講義と実習を通じて、人間の心理についての洞察力と自己成長を促進する力を育成し、人間存在に対する深い理解に基づく尊重の精神を備えた人材を育成する。 (4) 地域社会ならびに様々な領域における心理学的課題の理解と解決に資する人材を育成する。
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/hum_psychology.html）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人間と人間を取り巻く環境についての幅広い基礎知識の上に、臨床心理学の専門的知識を修得していること。 (2) 自らの思考や判断を説明するためのプレゼンテーション技能と、双方向的発展を可能とするコミュニケーションの技能を修得していること。 (3) 心理臨床における責任感と倫理観を身につけ、さまざまな人間の心の問題を理解し、適切な援助が出来る技能と能力を修得していること。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/hum_psychology.html）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「基礎知識、専門的知識と技能」を育成するため、「心理臨床の基礎」領域として必修科目である専修基礎科目を配置する。「心理臨床の応用」領域として専修科目を配置し、幅広い心の問題に関心を持ち、卒業論文で取り組むべき個別的な課題を学ぶ。 (2) 「プレゼンテーション・コミュニケーション技能」を育成するため、演習科目を配置する。 (3) 「責任感・倫理観、適切な援助技能」を育成するため、「心理臨床の展開」領域として専修実習科目を配置し、実習を通じて臨床的な感性を養う。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：履修要項 ）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 他者を支援するために必要な、人間尊重の態度をもつ人。 (2) 人との関わりを通して、自らの潜在的な資質を成長させる意欲をもつ人。 (3) 先入観にとらわれず、柔軟な視点からものごとを考える姿勢をもつ人。 (4) 臨床心理学とその関連領域(福祉、医療、教育など)における実践体験を、それぞれの学問的知見と統合して理解しようという意思をもつ人。 (5) 将来、臨床心理学の知見を活かして、地域に住む人々のさまざまな心の問題を支援したいという意思をもつ人。

学部等名 人文学部 こども発達学科
教育研究上の目的（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-chi_dev/objective/
(概要) (1) 子どもの身体・感情・思考、社会的相互作用を含む発達の全体像に関する基礎的理解を養う。 (2) 子どもの健全な育成に関する関心・意欲を高め、彼等の学力とその基盤となる健康、文化に関する現代的課題を実践的に解決する能力を養う。 (3) 小学校教諭一種免許状、保育士等の資格を取得し、小学校教諭、地域における子育て支援の指導者を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-chi_dev/objective/
(概要) (1) 人間と人間を取り巻く環境についての幅広い基礎知識を身につけている。 (2) 現代社会を豊かに生きるための技能と教養を身につけている。 (3) 子どもに対する共感的な視点を身につけている。 (4) 子どもの発達と教育に関する専門的知識を身につけている。 (5) 教育・保育の現場の状況に対応するための実践力を身につけている。 (6) 地域社会の教育・保育に寄与する知識・技能を身につけている。 (7) 課題に対し、学んだ知識を活用し、解決策を考えることができる。 (8) 乳幼児から児童期に至る心身の発達を見通す視点から問題を考えることができる。 (9) 子どもの発達と教育に関する問題を発見し、解決することができる。 (10) 自らの思考や判断を説明するためのプレゼンテーション技能を身につけている。 (11) 双方向的発展を可能とするコミュニケーション技能を身につけている。 (12) 学修を継続的に行う意志を持ち、主体的に取り組むことができる。 (13) 現代社会の諸問題、とりわけ、子どもの発達と教育に関する問題に関心を持ち、積極的に考える態度を身につけている。 (14) 子どもの未来を担う現代の教育・保育への情熱と、その発展に貢献する高い志を持っている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-chi_dev/objective/
(概要) (1) 「専門的知識」を育成するために「心理・発達」、「社会・福祉・教育」の科目群を配置する。 (2) 問題解決能力を育成するために、1年次の導入教育から4年次の「卒業研究」まで一貫した少人数教育を保証する。 (3) プレゼンテーション技能・コミュニケーション技能を育成するため、演習科目や実習科目を配置し、発表や討論を体験できるようにする。 (4) 子どもに対する共感的視点、教育・保育の現場に対応する創造的実践力を育成するために、「小学校教職課程」、「保育」の科目群を配置し、教育・保育の現場に即した授業内容を展開する。 (5) 社会教育に関わる科目を設置し、また、学校や保育園等の現場に触れる機会、地域の子どもと触れ合う機会を提供する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：入試ガイド ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/fac-hum/dep-chi_dev/objective/
(概要) (1) 高等学校卒業に相当する学力を身につけていること。 (2) 国語科の基礎学力を備えていること。 (3) 子どもの発達や教育・保育に関するニュースや文献に積極的に触れ、自分の持っている知識や経験をもとに論理的に考え、それを表現できること。 (4) 自らの興味・関心や目指すべき進路（小学校教員、保育士など）に基づいて、学びを

どのように展開したいかを主体的かつ具体的に考えることができること。

- (5) 人間発達の広い視野に立ち、子どもの発達支援や教育に寄与しようとする意欲を持つこと。
- (6) 高等学校等での課外活動や地域や子どもに対するボランティアなどの多様な活動経験を有する、あるいは、今後行いたいという強い意欲があること。

<p>学部等名 心理学部 臨床心理学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/f-psy/dep-cli_psy/objective/）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 講義と実習を通じて、人との対話能力や感受性、自己表現能力に基づく「心理コミュニケーション力」を備えた人材を育成する。 (2) 講義と実習を通じて、臨床心理的アプローチの技法や態度とともに、心理臨床における責任感や倫理観についても習得した、「心理的援助スキル」を備えた人材を育成する。 (3) 講義と演習を通じて、人間の心理についての洞察力と自己成長を促進する力を育成し、人間存在に対する深い理解に基づく尊重の精神を備えた人材を育成する。 (4) 地域社会ならびに様々な領域における心理学的課題の理解と解決に資する人材を育成する。
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/f-psy/dep-cli_psy/objective/）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人間と社会の多様性について総合的に理解することができ、人間と人間を取り巻く環境について幅広い基礎的知識を身につけている。 (2) 臨床心理学の専門知識を有し、心理コミュニケーションならびに心理的援助の基礎的スキルを修得している。 (3) 社会の様々な現場や職域における心理学的課題を理解することができる。 (4) 臨床心理学における倫理観を理解し、クライアントの心理学的問題を適切に把握して、援助方法について適確な判断をすることができる。 (5) 人間尊重の立場から、クライアントを援助する姿勢がある。 (6) 関連する領域の人たちと連携しながら協働し、地域に貢献しようとする姿勢がある。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/f-psy/dep-cli_psy/objective/）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 心理学ならびに臨床心理学の基礎領域における必修科目として、心理学基礎領域、演習領域、研究基礎領域の3領域からなる専修基礎科目を配置する。 (2) 心理コミュニケーション力と心理的援助スキルの実践的養成に関わり、心理臨床実習科目と心理臨床・実践職能科目とからなる専修実習科目を配置する。 (3) 臨床心理学とその展開を構成する多様な領域に接し多面的かつ専門的な理解力を養成するため、基礎心理学関連領域、発達・教育心理学関連領域、社会・産業心理学関連領域、医療福祉領域、心理療法関連領域、臨床心理学研究領域ならびに卒業論文の7領域からなる専修科目を配置する。また、心理学に隣接する諸分野についても学びを深め、人間と社会との関係について総合的に理解する力を育成するために心理学関連科目を配置する。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：入試ガイド ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/f-psy/dep-cli_psy/objective/）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 高等学校卒業に相当する学力を身につけていること。 (2) 高等学校等において、法学・政治学を学ぶ上で特に必要となる公民科、地理歴史科に関心をもち学習に積極的であること。 (3) 高等学校で課外活動や学校内・学校外でのボランティア活動などの経験があり、協調性をもつこと。 (4) 法学・政治学の専門知識と判断力を身につけ、自分の視野を広げ社会に貢献する意欲をもつこと。 (5) 自らの将来について考え、選んだ進路に進めるよう4年間を通じてステップアップの努力ができること。

学部等名 法学部 法律学科
教育研究上の目的（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/f-jur/dep-jur/objective/ ）
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人文・社会・自然の幅広い知識を身に付けさせ、社会の現実の一端に触れさせる。 (2) 自らの将来について考える機会を提供し、将来の進路のために努力する姿勢を確立させる。 (3) 一人ひとりの個性を大切にする感覚、国際社会における多様性を尊重する精神をはぐくむ。 (4) 法や政治に関する社会現象を学ぶことを通じて、現代社会の諸問題に対する冷静で客観的な分析力を培う。 (5) 法の理念や解釈に関する知識を習得させ、それに基づき現実の紛争に対して妥当な判断を下すことができるようにする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/f-jur/dep-jur/objective/ ）
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 法学的思考を広い視野の上で深めることができるよう、法学・政治学の基礎知識を身につけている。 (2) 法の条文解釈や判例の内容理解を通じて法学の専門知識を身につけている。 (3) 社会の紛争を法学的な観点にたち解決又は処理できる技能を身につけている。 (4) 法的事象・政治的事象について客観的に考察する力を身につけている。 (5) 法的事象・政治的事象について公正に判断する力を身につけている。 (6) 客観的な考察と判断を発表する能力とともに、他者と討論するコミュニケーション能力を身につけている。 (7) 一つの目標を達成したあと、次なる目標の達成に向け挑戦する気概をもって学び続けることができる。 (8) 紛争の解決に向け、グローバルからローカルに至る様々なところで、他者とともに行動する能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：履修要項 ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/f-jur/dep-jur/objective/ ）
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 1年次に必修科目である「憲法入門」「民法入門」を履修し法学に関する基礎知識を得るとともに、「基礎ゼミナール」で学修する姿勢を身につけさせる。 (2) 2年次から自らの進路に合わせてコースを選択し、それぞれのコースにおける専門科目の履修を通じて専門知識を深めながら、論理的思考力と判断力、発表力を発展させる。 (3) 地域活動の参加に向けた科目を設け、グローバルからローカルに至る様々なところで、現代社会が抱える諸問題の解決に向けて行動する力を身につけさせる。 (4) 早期の小さな成功体験に始まり、2年次以降にも資格・検定試験の受験を誘導するプログラムを設け、さらなるステップへの挑戦の誘導をはかる。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：入試ガイド ホームページ https://www.sgu.ac.jp/faculty/f-jur/dep-jur/objective/ ）
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 高等学校卒業に相当する学力を身につけていること。 (2) 高等学校等において、法学・政治学を学ぶ上で特に必要となる公民科、地理歴史科に関心を持ち学習に積極的であること。 (3) 高等学校で課外活動や学校内・学校外でのボランティア活動などの経験があり、協調性をもつこと。 (4) 法学・政治学の専門知識と判断力を身につけ、自分の視野を広げ社会に貢献する意欲をもつこと。 (5) 自らの将来について考え、選んだ進路に進めるよう4年間を通じてステップアップの努力ができること。

② 教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ（以下のURLを参照してください。） https://www.sgu.ac.jp/information/j09tjo000001je2h-att/soshiki.pdf
--

③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
経営学部	—	12人	3人	3人	0人	0人	18人
経済学部	—	10人	3人	2人	0人	0人	15人
人文学部	—	27人	11人	7人	0人	0人	45人
心理学部	—	9人	3人	1人	0人	0人	13人
法学部	—	12人	2人	1人	0人	0人	15人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		229人					229人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：ホームページ（以下のURLを参照してください。） https://www.sgu.ac.jp/research/rm.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学の理念及び各学部学科・大学院各研究科の教育目標を踏まえ、教員が授業内容・方法を改善し向上させるために行う組織的な取組として活動を行っています。なお、会議は札幌学院大学FDセンター規程で定めた構成員が、年4回程度委員会を開催し授業改善方法などの諸課題を議論します。また、年数回の研究会では学外より講師を招いて情報共有を行ったり、学外開催の研修会等に参加して先駆的な取組み事例や自身の取組みをその場で発表するなどの活動を行っています。</p>							

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経営学部	170人	283人	166%	680人	661人	97%	0人	2人
経済学部	150人	162人	108%	600人	613人	102%	0人	0人
人文学部	230人	242人	105%	1,020人	844人	83%	0人	1人
心理学部	95人	82人	86%	285人	294人	103%	0人	0人
法学部	150人	184人	123%	600人	514人	86%	0人	0人
合計	795人	953人	120%	3,185人	2,927人	92%	0人	3人
(備考) 編入学定員は、「欠員の範囲」で「若干名」								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数、進学者数、就職者数			
	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経営学部	92人 (100%)	1人 (1.1%)	73人 (79.3%)	18人 (19.6%)
経済学部	86人 (100%)	0人 (0.0%)	78人 (90.7%)	8人 (9.3%)
法学部	97人 (100%)	0人 (0.0%)	91人 (93.8%)	6人 (6.2%)
人文学部	186人 (100%)	6人 (3.2%)	155人 (83.3%)	25人 (13.4%)
合計	461人 (100%)	7人 (1.5%)	397人 (86.1%)	57人 (12.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 北海道大学大学院経済学院会計情報専攻、北海道大学大学院文学院人間科学講座心理学研究室、札幌学院大学大学院臨床心理学研究科、北海道セキスイハイム株式会社、佐藤水産株式会社、北海道旅客鉄道株式会社、ホンザキ北海道株式会社、株式会社モロオ、イオン北海道株式会社、札幌中央信用組合、株式会社北洋銀行、北海道労働金庫、苫小牧信用金庫、医療法人風のすずらん会(江別すずらん病院)、社会福祉法人はるにれの里、練成会グループ、石狩市農業協同組合、北いぶき農業協同組合、札幌商工会議所、江別商工会議所、ANA 新千歳空港株式会社、国家公務員一般職、労働基準監督官、北海道職員、道内市町村職員、北海道警察、公立学校教員				
(備考) 2020年5月1日現在(文部科学省学校基本調査より)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数			
		卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
経営学部	115人 (100%)	85人 (73.9%)	10人 (8.7%)	18人 (15.7%)	2人 (1.7%)
経済学部	96人 (100%)	80人 (83.3%)	5人 (5.2%)	9人 (9.4%)	2人 (2.1%)
人文学部	220人 (100%)	169人 (76.8%)	17人 (7.7%)	32人 (14.5%)	2人 (1.0%)
法学部	113人 (100%)	90人 (79.7%)	10人 (8.9%)	12人 (10.6%)	1人 (0.8%)
合計	544人 (100%)	424人 (77.9%)	42人 (7.7%)	71人 (13.1%)	7人 (1.3%)
(備考) 2020年3月31日現在(2019年度前期末卒業生は除く) 2019年度末で卒業した学生が入学した『入学者数』から『卒業・留年・退学除籍』『その他(休学者)』を2019年度末人数として表示しています。					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

学生に配布している履修要項に、1年間の授業カレンダーとして掲載し授業計画を公表するとともに、個別の授業内容についてシラバスに掲載して公表しています。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
本学のホームページに学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項で定めた情報公開として、「学位と卒業要件・成績評価基準」について公表しています。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経営学部	経営学科	124 単位	有	48 単位
	会計ファイナンス学科	124 単位	有	48 単位
経済学部	経済学科	124 単位	有	42 単位
人文学部	人間科学科	124 単位	有	48 単位
	英語英米文学科	124 単位	有	48 単位
	臨床心理学科	124 単位	有	48 単位
	こども発達学科	124 単位	有	48 単位
心理学部	臨床心理学科	124 単位	有	48 単位
法学部	法律学科	124 単位	有	48 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：履修要項に記載し、履修指導の他成績優秀者、留学や奨学金受給などの判定基礎資料として活用しています。		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：奨学生に対する適格認定の判定基礎資料として活用していきます。		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページ（以下の URL を参照してください。）
【キャンパスマップ】 https://www.sgu.ac.jp/information/map.html
【第 1 キャンパス】 https://www.sgu.ac.jp/information/campus1.html
【第 2 キャンパス（総合グラウンド）】 https://www.sgu.ac.jp/information/campus2.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
経営	会計ファイナンス	740,000 円	120,000 円	180,000 円	その他は 教育充実費
	経営				
経済	経済				
人文	人間科学				
	英語英米文学				
	臨床心理				
	こども発達				
心理	臨床心理				
法	法律				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 本学のホームページに学校教育法施行規則第172条の2第1項で定めた情報公開として、「学生の支援」について掲載しています。具体的な取り組み内容は、学習支援としてレポートや論文などの書き方や、英語の勉強をサポートするTAやSAを細かく配置しています。また、障がい学生支援として個々の障がいの状態に応じて、本人の申請により講義中のポイントテイク、ノートテイク及びパソコンテイクによる講義情報保障を行うと共に、肢体不自由学生には申請により通学介助も行っています。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 低学年では自分を知り、将来について考えることを意識する機会を設けている。キャリア教育に関する科目（職業と人生A、職業と人生B、職業と人生C、職業と人生D、キャリアデザイン演習A、キャリアデザイン演習B、企業の経営と仕事、職業を知る、ビジネス演習A、ビジネス演習B、キャリアマーケティングなど）を開講し、1年次より学生の職業観醸成とキャリア形成を支援している。さらに、学生が自身の能力把握と進路選択・職業選択に活用できるよう、1年次よりコンピテンシー検査（企業が求める業績・成果に対する行動・思考特性を科学的に分析する検査）を3年次まで実施し、実施後は結果の活用方法について解説を行っている。</p> <p>進路に関わる相談窓口であるキャリア支援課では学生一人ひとりの適性を細かく把握できるように、学科ごとに担当職員を配置し進路相談と就職指導を行っており、合わせて3名のキャリアアドバイザーによる、履歴書・エントリーシートの添削や面接指導などの個別指導も行っている。</p> <p>学生が社会で必要とされている能力や自身の適性を知ることが目的とするインターンシップ（就業体験）についてもキャリア支援課が事務局となり受入先企業の開拓、学生と企業・団体とのマッチングを行っている。</p> <p>就職活動に関しては、自宅からでもインターネット上で大学に届いた求人情報やOB在社データを確認できる「就職支援システム」を構築し、北海道外の企業の受験に際して旅費の半額を補助する「道外企業採用試験受験旅費支援制度」を設け、学生をソフト、ハードの両面から支援している。</p> <p>3年生に対しては、内定者体験報告会やOB・OG懇談会、業界研究会を開催し、社会で活躍している卒業生の話を聞く機会や業界・企業の理解を深める機会を提供している。合わせて、学生の就職先のミスマッチを防ぐために外部機関と連携し求人票の見方や、ワークルールについても学ぶ機会を設けている。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 学生が心身ともに健康的な学生生活が送れるよう「保健センター」及び「学生相談室」を設置しています。</p> <p>「保健センター」には、看護師資格を有する専任職員が常駐し、定期健康診断実施及び事後の健康指導、保健センター利用者への生活指導（外傷時の手当ての方法の紹介や自炊学生への献立紹介等の栄養指導など）、医療機関への紹介、アルコールパッチテストの実施及び結果判定カードによる指導、世界エイズデーや世界禁煙デーなどの案内と啓蒙活動等の実施などを行っています。</p> <p>「学生相談室」には、臨床心理士の資格を有するカウンセラー2名（専門職員）を配置し、学生相談に対応しています。</p> <p>多様な背景をもつ学生の入学も増え、学生のカウンセリングのみならず、保護者、学内の教職員、地域・医療機関と連携するケースが多く、学生の心身の健康を保ち充実した生活が送れるように学生の問題解決に向けて、保護者、地域・医療機関を含めた学内外との連携を図りながら支援を行っています。さらに、学生相談室を利用し易くする目的として、月に1回『セラピードッグとのふれ合い』を開催している他、グループワークを含めた学生同士の交流の場として『ランチカフェテリア』や、心理教育として『ストレスマネジメント』、コミュニケーションが苦手な学生を対象とした『社会移行支援プログラム』を開催しています。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページ（以下のURLを参照してください。）

<https://www.sgu.ac.jp/information/public.html>